

# 特集

## ちがいを認め、 共に生きる

企画調整課  
地域振興係  
☎22-1152



▲日本語教室の様子

### 「日本語教室」を開催

町の第6次総合計画のテーマの一つである「人権には、多文化共生などあらゆる人権課題に対応した社会環境の整備と意識啓発に取り組む」として、地域に住む外国人に日本語を学ぶ環境を提供するため、町は、岐阜県との共催で日本語教室を初めて開催しました。教室では、受講者の話す言語にかかわらず、「やさしい日本語」を用いて、地域の行事やお祭り、「よきい」日本語プログラムへの対応などの表現を学びました。この教室では、町内の日本人や日本語が得意な外国人に「学習支援ボランティア」として受講者をサポートしてもらいながら学習しました。全5回の教室に8カ国、50人を越える参加者が集い、交流を深めました。



▲ごみの分別の仕方を学ぶ受講者と学習支援者の様子(右上)、受講者のみなさん(左上、下)

### 参加者の声を聞いてみました /



近藤マサオさん  
(出身：ブラジル)

もっと日本語が上手になりたい私は、祖母が垂井に住んでいることがきっかけで、5年ほど前から垂井に住み、町内の企業で働いています。この教室は少し難しかったけど、たくさん日本語を話すよきっかけになりました。もっと日本語が上手になりたいと思いました。



イー ユ サンさん  
(出身：ミャンマー)

さまざまな国の人たちと一緒に私は2年ほど前から垂井の企業で働き、住んでいます。この教室では、たくさん国の人たちが集まり、一緒に日本語を学ぶことができても楽しかったです。また機会があればぜひ参加したいです。



小川弘海さん

学習支援ボランティアとして私は以前海外で仕事をしてきたことから、外国人との交流に興味がありました。また、近くに住み、困っている外国人の助けになりたいという思いで参加を決めました。実際に参加してみると、「簡単な日本語」を用いることの難しさや、受講者によって異なる日本語レベルに合わせてコミュニケーションを図ることに苦労しました。しかし、何度か参加することで受講者に顔を覚えてもらうようになり、言葉が上手く話せなくても心の通ったコミュニケーションができました。受講者にとってだけでなく、我々学習支援者にとっても異文化を知る良い機会になりましたし、今後もこのような交流を通して日本語教育を支援できる場があれば積極的に参加したいと思います。

### 私たちにできること



岐阜県モデル日本語教室  
日本語指導者  
佐藤みきこさん

私たちが何もしなくても多様性はどんどん進んでいきます。一方で、受け入れる環境は私たちが作っていかねばなりません。相手のことを理解するのは簡単なことではありませんが、まず、興味を持って話を聞く姿勢が大切です。また、自分のことを伝えるときも工夫が必要です。私たちの心持ちが少し変わるだけで、伝わった！理解できた！という瞬間が生まれます。日本語教室での相互理解の体験を通じて、多様性を認め合う環境を作っていくっていただきたいです。

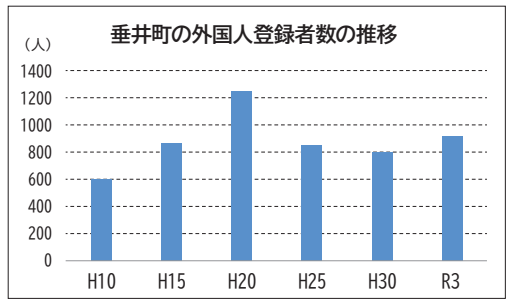


岐阜県モデル日本語教室  
日本語指導者  
米倉由光さん

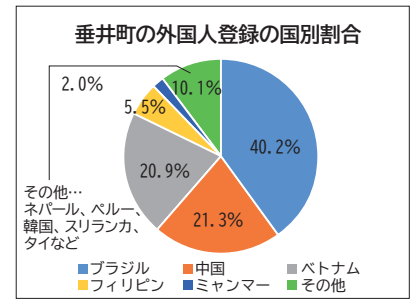
皆さんの生活圏でも外国人の方を見かけることが増えたのではないのでしょうか。楽しくお話ししたいと思う一方で、ルールを伝えなければ...と思われたこともあるのではないのでしょうか。そう思っても、きっかけがないことからコミュニケーションがうまくとれないことがあります。外国人の方も同じ思いです。日本人の方とお話したい、垂井町のこともっと知りたいと思いつつも、会社と家の往復...。日本語も心配です。今回、垂井町さんの日本語教室には53名とたくさんの応募がありました。「もっとつながりたい」という気持ちが伝わってきます。ぜひ気軽に「きっかけ」を作っていたいただければと思います。

### 垂井に住む外国籍の人たち

本年4月1日現在の住民基本台帳によると、垂井町には839人の外国人が居住しています。国別割合を見ると、ブラジル、中国、ベトナム出身者で約8割を占めています。外国人全体の人口推移は、平成10年から20年までの10年間で、約600人から1200人へ2倍に増加しましたが、経済状況(リーマンショック)の影響を受け一時減少傾向になり、最近では1000人に近い人数を維持しています。



出典：町勢要覧より



出典：住民基本台帳より(令和4年4月1日時点)